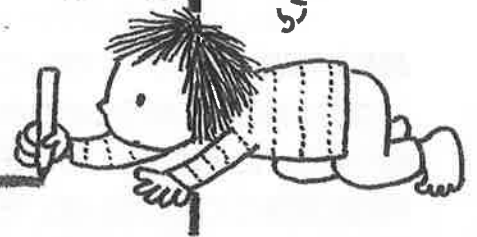


2021年

こどもニュース

No. 18

2. 24 発行



季節を楽しんで一寒くてもへっちゃら！ー

この冬はここ数年の暖冬とは違い、何回も雪が降りました。つい先日も、自宅を出たときにはただの曇天だったのに園に近づくにつれ雪が舞い始めました。そして大森に着くと木々には雪が積もり、対向車の屋根にも積もっています。一時は吹雪か？と心配になるほどの降り方でしたね。幼稚園は？と言えばエントランスの向うは真っ白の別世界！驚きましたが本当に白くてきれいでした。子ども達は登園してくると、「わあ、雪だ！」と大喜び。いつもはのんびりやさんの子どもも、この日は急いでお仕度を済ませ、園庭に飛び出していく姿が見られました。やがて小さな雪だるまが砂場近くのベンチにたくさん並びましたよ。せっかくの雪だったのでスタッフで話し合い、この日は朝の体操は無しにして思いっきり雪を楽しもうということになりました。積もっている量は多くなく、体操をしていたら溶けてしまうかもしれません。この時にしかできない経験を大事にしたい、と考えたからです。



また、外で遊んでいる最中に雪が降り始めたこともありました。それだけでうれしくなってしまう子ども達。降ってくる雪を追いかけたり、手のひらに受け止めたり。「あ、なくなっちゃうよ。どうして？」と「溶ける」ことを発見している子もいました。ドッチボール大好きな年長さんたちは雪の中でもへっちゃらでゲームを続けていました。あっぱれです。

寒い冬に大人は凍えています、子ども達は神様がくださった季節をしっかりと楽しんでます。天気予報を調べて「明日は寒いから氷ができるかも」とエントランス北側にお花などを浮かべたコップの水を準備したり、できた氷でアイスクーキを作ったり。これからも季節があることを喜び、楽しんでいきたいと思ひます。

経験を再現する遊びーバザーごっこー

コロナ禍の中、おうちの方々が実施して下さったバザーを経験した子ども達は繰り返し、お店屋さんごっこを楽しんでいます。今年度の父母の会バザーは分散で何回も実施して下さいましたが、それに対抗してか(笑)子ども達も繰り返し「バザーごっこしたい」と計画し3学期も太々的に開かれました。回数を重ねるにつれ商品のクオリティーも上がり、準備の仕方、商品の並べ方、見せ方も専門的になってきています。また年長さんの姿に刺激を受け「僕も」「私も」と年中さん中心のお店も増え、来年度への繋がりも見え頼もしく感じました。



多くの幼稚園や保育園で「行事」として実施される「お店屋さんごっこ」ですが最初から年間行事の中で日程が決まっていたり、その日にむけて「一人3個」と制作することが決められていたり買うものも「ひとり3つ」と限定されて実施されることも多いことを考えると、この園の子ども達の「バザーごっこ」はなんと豊かで楽しい発想にあふれていることなのでしょう。予定された行事として経験しても楽しいお買い物になるとは思いますが、楽しかった自分達の経験を「再現したい」ということも自身の主体的な気持ちから始まるのとは実際にはずいぶんと違いがあるように感じます。子ども達自身の「やりたい」という気持ちから始まるバザーごっこでは当日のお買い物だけではなく、実現に向けて相談したり事前に準備したり役割分担も自分達で考えたりする、というような様々な要素が遊びの中に含まれていきます。買い物に行ったのに自分も売りたくなって即席のお店を作る、というようなことがおこったり、繰り返しバザーごっこが開催されるたびに年中、年少さんもお店を開くようになってくる(ほとんどの場合、お買い物ごっこは年1回、売り手は年長さんと決まっていることが多いです)というのも、本園ならではの。

これからも子ども達自身の主体的な「やりたい」という気持ちを大事にした遊びを支えていきたいと思ひます。

クラスを超えて広がる一電車の街一

それは、一人の子どもが作ってきた踏切から始まりました。おうちで作ってきた可動式の踏切、素晴らしい！それに触発されて線路ができ、だんだんと広がり駅ができ……。ここで隣り合うクラスのスタッフが話し合い、線路はお隣のお部屋にも広がっていきました。たくさんの子どもの関わり電車も作り走りさせています。

「新幹線 700 系」「こまち」「ドクターイエロー」などなど。

個人的に「阪急電車」を作ってほしいと頼みましたが、それは未だ実現していません。



ゆり前のテラスは電車の待機場になったり、駅になったりしていました。最近ではさらに線路を伸ばすために「ザラ板(すのこ)」を使ったらどうかと提案すると、自分達で運んで線路を広げ、そのうち線路沿いに「たこ焼き屋」がオープンしました。このたこ焼き屋さんはひつじ組にお店を構えていたのですが線路わきにお店を移してから売り上げがそうとう伸びたとか。やはり立地条件は大事なのですね。

スタッフはいつも「一人の面白さを皆の面白さに」したいとアンテナをはっています。子ども達のつぶやきを拾い、小さな遊びから次の面白さへ、もっと面白い遊びの世界へ子ども達と一緒にいきたいと思っています。そのために実はいつも長い時間をかけて話し合い、子ども達の姿を共有し、連携し保育にあたっています。クラスを超えて遊びが広がっていくのは保育者もクラスや立場を超えて遊びを共有し支えたいと願っているからです。

受け継がれていく遊び

たてわりの生活ではどの遊びの場面でも遊びが文化として受け継がれていくのですが最近象徴的な姿が見られたので、お伝えします。

先日園庭のドッチボールに参加している子ども達の姿を見て「あれ?いつもと違うぞ」と感じる日がありました。いつもは年長さんが多いのですがこの日はドッチボールを楽しんでいる中心が年中さんだったのです。年少さんも交じっていました。

実は年長さんは今、卒園制作の椅子作りをしています。自分で作った「椅子」に

座り卒園式を迎えるのですが、この日かなりの年長さんが制作にかかりっきりで忙しかつたのです。年長さんの参加が少ない中、この日はりきってドッチボールを楽しんでいた年中さん達に(4月から頼むよ)と声をかけたくなりました。

バザーごっこでもそうでしたが、年長さんがしっかりと遊びを伝えてくれたのだなあとあらためて感じ、それを受け止めている年中さん年少さんの姿に来年度に繋がる頼もしさを感じました。

「あつまり」と「主体的な遊びの時間」のいい関係

このように主体的な遊びを大事にしている私達ですが、同時に幅広い経験もしてほしい、と願っています。「好きな遊びにのめり込む」ためには「好きな遊びが見つかる」ことが大事です。クラスのあつまりや年齢別のあつまりでは、自分だけでは経験しにくいことも、みんなで一緒にやってみることを大事にしています。ここで新しい遊びに出会ったり苦手な事に挑戦してみるのです。

年中さんでは最近ドッチボールに挑戦！クラス対抗で何度も経験してみました。最初は「あたるから嫌だ」と言っていた子も、この年中のあつまりで経験したことで自信が付き、自由に遊ぶ時間にも年長さんにまじってドッチボールを楽しむようになりました。

年少さんは今、園庭の遊具に全員で挑戦しています。今まで「太鼓橋」に登ったことがなかった子が、これをきっかけに喜んで登っています。また鉄棒に挑戦する年少さんをよく見かけるようになりました。

こうしてあつまりの時間の経験が主体的な遊びの時間に繋がり、主体的な遊びをさらに豊かに重層的にしていくと考えています。それぞれの時間がバラバラにあるのではなく、繋がりがあつること、循環していくような「いい関係」が大事です。

「ドキュメンテーション」見てね！

こういった遊びの数々を子ども達と共に体験していただくことはできませんでしたが、スタッフが今の遊びの様子をドキュメンテーション(『保育の今』を伝える写真入りの掲示)にして少しずつお知らせしています。

子ども達の姿に込められた「遊びの意味」「保育の意図」にもご注目ください。これからも「主体的な遊び」を通して子ども達の育ちを支えていきたいと思つています。

児玉芽 